テーマ２　工業簿記の勘定連絡

２－１　仕訳と勘定記入

工業簿記でも、商業簿記と同じように、仕訳（しわけ）と勘定記入（かんじょうきにゅう）をします。そこで、まず簿記３級で学習した仕訳と勘定記入について復習します。

①　仕訳

仕訳とは、簿記において取引を記録するためのルールです。仕訳は、以下のように、借方（かりかた）の勘定科目・金額と、貸方（かしかた）の勘定科目・金額で表します。

（例）材料100を現金で購入した。

（借）材　　料　　100　　（貸）現　　金　　100

簡略的に、以下のように書くこともあります。

材　　料　　100　／　現　　金　　100

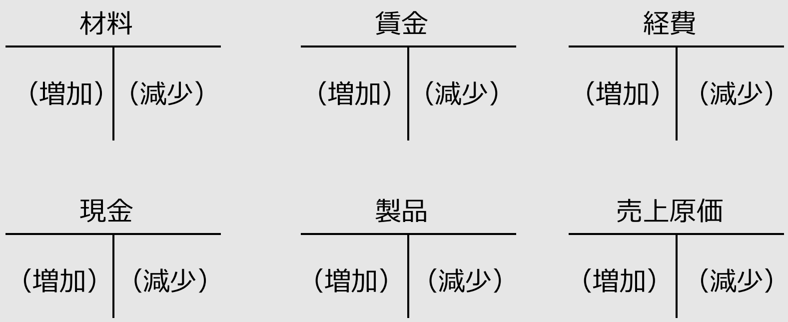
Point!　左側を「借方」、右側を「貸方」というのが、簿記の決まりです。

②　勘定と勘定科目

勘定とは、取引を記録するための集計表です。勘定は、勘定科目（かんじょうかもく）ごとに作成します。勘定科目には、例えば、現金、材料、賃金、経費、製品、売上高、売上原価などがあります。

勘定には増加・減少を記録します。簿記３級では、借方が増加（貸方が減少）になる勘定科目と、逆に、借方が減少（貸方が増加）になる勘定科目があることを学習しました。

工業簿記で登場する勘定科目は、ほとんどが資産または費用ですので、借方が増加（貸方が減少）になります。



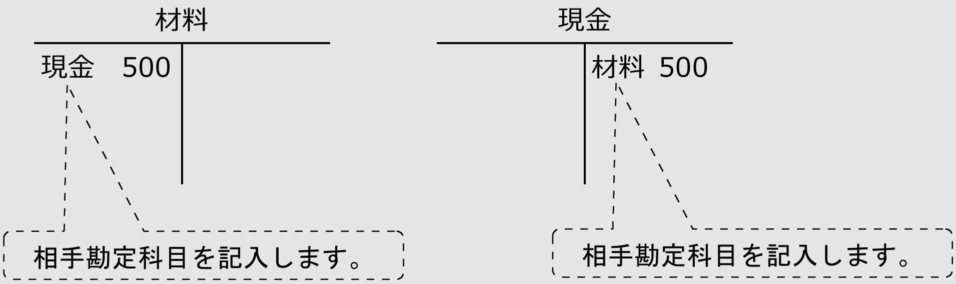
③　勘定記入

仕訳にもとづいて勘定に記入することを、**勘定記入**（かんじようきにゆう）といいます。例えば、以下のように勘定記入します。

＜仕訳＞

（借）材　　料　500　（貸）現　　金　500

＜勘定記入＞



２－２　工業簿記の勘定記入

（１）工業簿記に特有の勘定科目

工業簿記では、商業簿記では使わなかった勘定科目が登場します。代表的な勘定科目は、次のとおりです。なお、代表的な勘定科目の他にも、勘定科目は必要に応じて任意に設定することができます。

＜代表的な勘定科目＞

①　材　料・・・材料を集計するための勘定科目です。

②　賃　金・・・賃金を集計するための勘定科目です。

③　経　費・・・経費を集計するための勘定科目です。

④　仕掛品（しかかりひん）・・・完成品原価を計算するための勘定科目です。

⑤　製造間接費・・・製造間接費を集計するための勘定科目です。

⑥　加工費・・・加工費を集計するための勘定科目です。

⑦　製　品・・・製品を集計するための勘定科目です。

（注）製造中（未完成）の製品を「仕掛品」といいます。仕掛品勘定は、製造原価を集計する重要な勘定です。

（２）勘定の記入方法

工業簿記における勘定記入について、学習します。

以下では、個別原価計算の場合を例に、原価計算の流れにしたがって、仕訳と勘定記入を行います。

① 材料

1） 材料500を現金で購入した。

＜仕訳＞

（借）材　料　500　（貸）現　金　500

＜勘定記入＞

材料

現　金 500	

現金

	材　料 500

2） 製品を製造するために直接的に材料400を、間接的に材料100を使用した。

＜仕訳＞

（借）仕 掛 品　400　（貸）材　料　400

（借）製造間接費　100　（貸）材　料　100

＜勘定記入＞

材料

現　金 500	仕 掛 品 400
	製造間接費 100

仕掛品

材　料 400	

製造間接費

材　料 100	

Point! 「仕掛品」勘定が、「製造指図書」にあたる勘定科目になります。

② 賃金

1） 当月の賃金として600を支払った。

＜仕訳＞

（借）	賃金	600	（貸）	現金	600

＜勘定記入＞

賃金

現金	600		

現金

		賃金	600

2） 当月の賃金600のうち、製品製造の直接的な作業のための賃金は500であり、残り100は間接的な作業のための賃金であった。

＜仕訳＞

（借）	仕掛品	500	（貸）	賃金	500
（借）	製造間接費	100	（貸）	賃金	100

＜勘定記入＞

賃金

現金	600	仕掛品	500
		製造間接費	100

仕掛品

材料	400		
賃金	500		

製造間接費

材料	100		
賃金	100		

③　経費

1）　当月の経費として800を支払った。

<仕訳>

（借）	経　費	800	（貸）	現　金	800

<勘定記入>

経費

現　金　800	

現金

	経　費　800

2）　当月の経費800のうち、直接経費は600であり、間接経費は200であった。

<仕訳>

（借）	仕　掛　品	600	（貸）	経　費	600
（借）	製造間接費	200	（貸）	経　費	200

<勘定記入>

経費

現　金　800	仕　掛　品　600
	製造間接費　200

仕掛品

材　料　400	
賃　金　500	
経　費　600	

製造間接費

材　料　100	
賃　金　100	
経　費　200	

④　製造間接費

製造指図書に配賦された製造間接費は350である。

＜仕訳＞

（借）仕　掛　品　　350　　（貸）製造間接費　　350

＜勘定記入＞

製造間接費

材　　料	100	仕　掛　品	350
賃　　金	100		
経　　費	200		

仕掛品

材　　料	400		
賃　　金	500		
経　　費	600		
製造間接費	350		

⑤　仕掛品

仕掛品のうち、完成品原価は1,500であった。

＜仕訳＞

（借）製　　品　　1,500　　（貸）仕　掛　品　　1,500

＜勘定記入＞

仕掛品

材　　料	400	製　　品	1,500
賃　　金	500		
経　　費	600		
製造間接費	350		

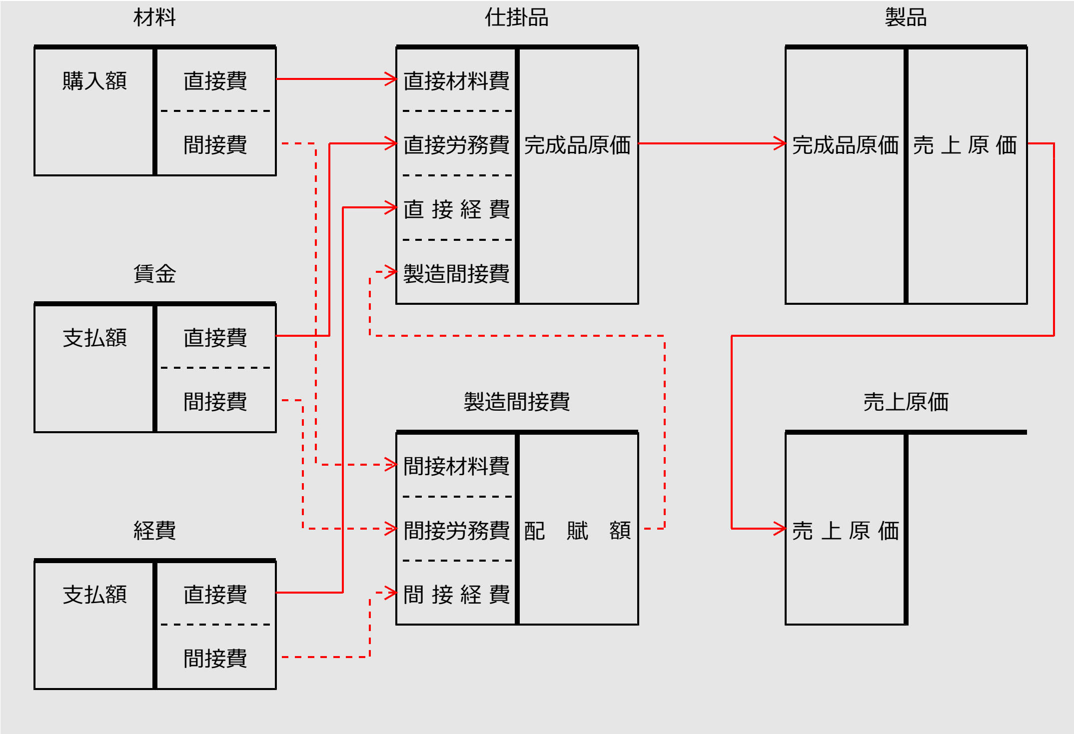
製品

仕 掛 品	1,500		

２－３　勘定連絡図

（１）勘定連絡図（個別原価計算の場合）

　これまで学習した勘定記入をまとめると、個別原価計算における「勘定連絡図」は、以下のようになります。



Point!　原価計算を進めていくにつれて、左から右へ金額が流れていきます。

例題２-１　**個別原価計算の勘定連絡図**

当社は、個別原価計算を採用しています。以下の仕訳に基づいて、勘定連絡図に金額を記入しなさい。なお、勘定への相手勘定科目の記入は不要である。

＜仕訳＞

① 材料の購入

（借）材　料	500	（貸）現　金	500	

② 賃金の支払

（借）賃　金	600	（貸）現　金	600	

③ 経費の支払

（借）経　費	800	（貸）現　金	800	

④ 材料の消費

（借）仕 掛 品	300	（貸）材　料	300	（直接材料費）
（借）製造間接費	100	（貸）材　料	100	（間接材料費）

⑤ 賃金の消費

（借）仕 掛 品	400	（貸）賃　金	400	（直接労務費）
（借）製造間接費	100	（貸）賃　金	100	（間接労務費）

⑥ 経費の消費

（借）仕 掛 品	600	（貸）経　費	600	（直接経費）
（借）製造間接費	200	（貸）経　費	200	（間接経費）

⑦ 製造間接費の配賦（はいふ）

（借）仕 掛 品	350	（貸）製造間接費	350	

⑧ 完成品の振替

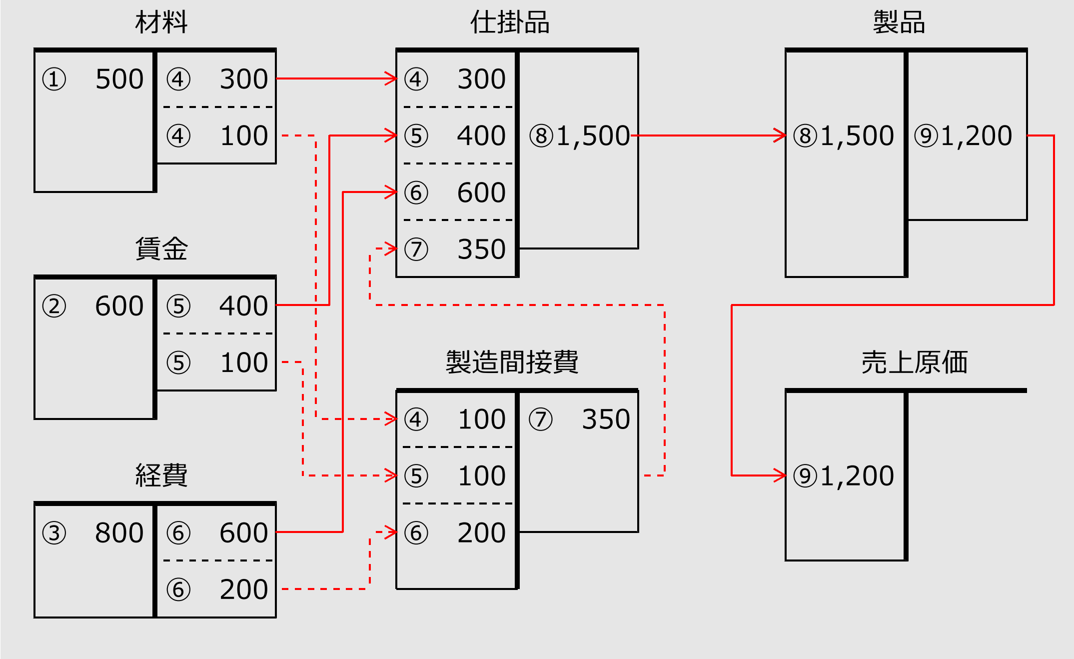
（借）製　品	1,500	（貸）仕 掛 品	1,500	

⑨ 売上原価への振替

（借）売 上 原 価	1,200	（貸）製　品	1,200	

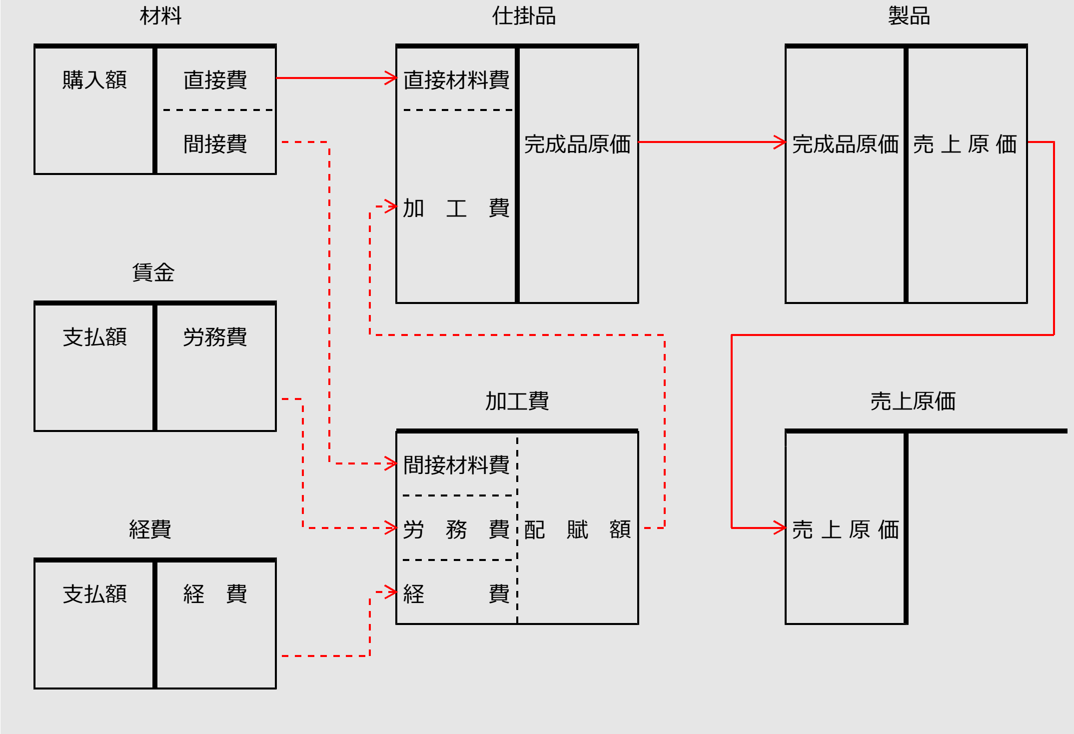
＜解答・解説＞　○数字は、仕訳番号です。

＜勘定記入＞



（2）勘定連絡図（総合原価計算の場合）

総合原価計算における「勘定連絡図」は、以下のとおりです。



Point!　原価計算を進めていくにつれて、左から右へ金額が流れていきます。

例題２-２　**総合原価計算の勘定連絡図**

当社は、総合原価計算を採用しています。以下の仕訳に基づいて、勘定連絡図に金額を記入しなさい。なお、勘定への相手勘定科目の記入は不要である。

<仕訳>

① 材料の購入

（借）材　料	500	（貸）現　金	500	

② 賃金の支払

（借）賃　金	600	（貸）現　金	600	

③ 経費の支払

（借）経　費	800	（貸）現　金	800	

④ 材料の消費

（借）仕 掛 品	300	（貸）材　料	300	（直接材料費）
（借）加 工 費	100	（貸）材　料	100	（間接材料費）

⑤ 賃金の消費

（借）加 工 費	500	（貸）賃　金	500	

⑥ 経費の消費

（借）加 工 費	800	（貸）経　費	800	

⑦ 加工費の振替

（借）仕 掛 品	1,300	（貸）加 工 費	1,300	

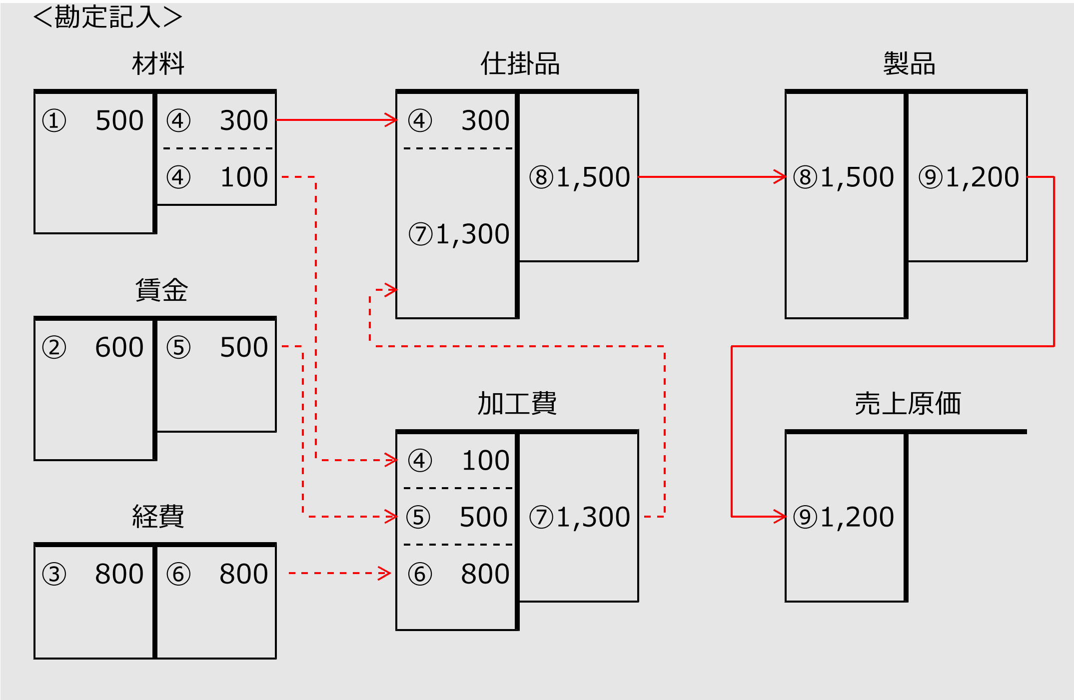
⑧ 完成品の振替

（借）製　品	1,500	（貸）仕 掛 品	1,500	

⑨ 売上原価への振替

（借）売上原価	1,200	（貸）製　品	1,200	

<解答・解説>　○数字は、仕訳番号です。



テーマ２　工業簿記の勘定連絡 問題

問題２　以下の取引について、（1）仕訳を行い、（2）答案用紙に示した各勘定へ転記しなさい。

①　材料100,000円を掛けで仕入れた。
②　主要材料70,000円、補助材料20,000円を消費した。
③　賃金・給料200,000円を現金で支払った。
④　直接工直接賃金120,000円、直接工間接賃金40,000円、間接工賃金30,000円を消費した。
⑤　経費300,000円を現金で支払った。
⑥　直接経費220,000円、間接経費80,000円を消費した。
⑦　製造間接費170,000円を配賦した。
⑧　完成品の製造原価は600,000円であった。
⑨　売上原価は610,000円であった。
⑩　製品800,000円を掛けで販売した。

テーマ２　工業簿記の勘定連絡 答案用紙

問題２

（1）仕訳（単位：円）

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				

（2）勘定記入（単位：円）

材　　料

前月繰越	30,000		

賃金・給料

未払賃金	50,000	未払賃金	60,000

経　　費

売　上　高

仕　掛　品

前月繰越	120,000		

製造間接費

製　　品

前月繰越	200,000		

売 上 原 価

テーマ２　工業簿記の勘定連絡 解答解説

問題２　**解答**

（1）仕訳（単位：円）

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	材料	100,000	買掛金	100,000
②	仕掛品	70,000	材料	90,000
	製造間接費	20,000		
③	賃金・給料	200,000	現金	200,000
④	仕掛品	120,000	賃金・給料	190,000
	製造間接費	70,000		
⑤	経費	300,000	現金	300,000
⑥	仕掛品	220,000	経費	300,000
	製造間接費	80,000		
⑦	仕掛品	170,000	製造間接費	170,000
⑧	製品	600,000	仕掛品	600,000
⑨	売上原価	610,000	製品	610,000
⑩	売掛金	800,000	売上高	800,000

(2) 勘定記入（単位：円）

材　料

前月繰越	30,000	仕掛品	70,000
買掛金	100,000	製造間接費	20,000
		次月繰越	40,000
	130,000		130,000

仕掛品

前月繰越	120,000	製品	600,000
材料	70,000	次月繰越	100,000
賃金・給料	120,000		
経費	220,000		
製造間接費	170,000		
	700,000		700,000

賃金・給料

未払賃金	50,000	未払賃金	60,000
現金	200,000	仕掛品	120,000
		製造間接費	70,000
	250,000		250,000

製造間接費

材料	20,000	仕掛品	170,000
賃金・給料	70,000		
経費	80,000		
	170,000		170,000

経　費

現金	300,000	仕掛品	220,000
		製造間接費	80,000
	300,000		300,000

製　品

前月繰越	200,000	売上原価	610,000
仕掛品	600,000	次月繰越	190,000
	800,000		800,000

売上高

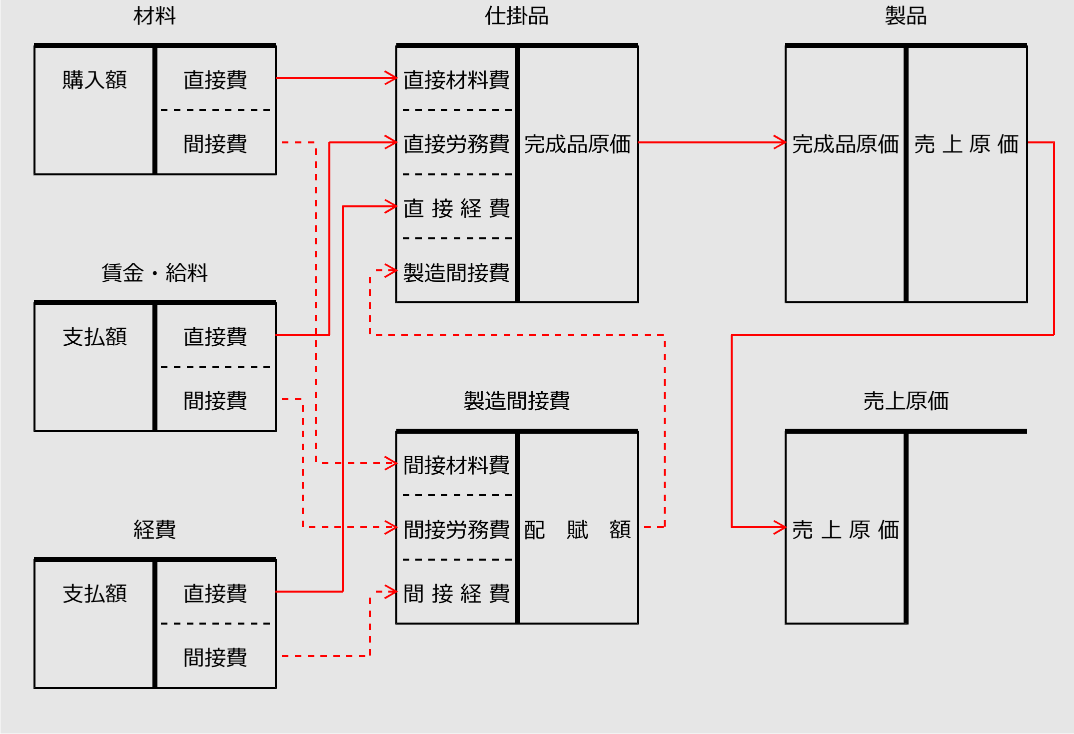
		売掛金	800,000

売上原価

製品	610,000		

問題２　**解説**

工業簿記で登場する勘定科目は、ほとんどが資産または費用ですので、借方が増加、貸方が減少になります。そのため、工業簿記では、以下のような左から右に流れるような勘定連絡図になります。この勘定連絡図をイメージしながら、仕訳と勘定記入を行います。



① 材料を購入したので、材料勘定が増加します。

② 材料を消費したときは、直接材料費は材料勘定から仕掛品勘定に振り替え、間接材料費は材料勘定から製造間接費勘定に振り替えます。なお、主要材料費は直接材料費、補助材料費は間接材料費です。

③ 賃金・給料を支払ったので、賃金・給料勘定が増加します。

④ 賃金・給料を消費したときは、直接労務費は賃金・給料勘定から仕掛品勘定へ振り替え、間接労務費は賃金・給料勘定から製造間接費勘定に振り替えます。なお、直接工直接賃金は直接労務費、直接工間接賃金と間接工賃金は間接労務費です。

⑤ 経費を支払ったので、経費勘定が増加します。

⑥ 経費を消費したときは、直接経費は経費勘定から仕掛品勘定へ、間接経費は経費勘定から製造間接費勘定へ振り替えます。

⑦ 製造間接費を配賦したときは、製造間接費から仕掛品勘定に振り替えます。

⑧ 製品が完成したら、完成品原価を仕掛品勘定から製品勘定へ振り替えます。

⑨　売上原価は、製品勘定から売上原価勘定へ振り替えます。

⑩　売上高を売上高勘定の貸方に記入します。